



犬猫のシニアライフを支える心と身体のケア

麻布大学 獣医臨床看護学研究室

小野沢 栄里

獣医療

診療

- 手術、X線検査、診察等に基づく診断など

獣医師のみ
実施可能

診療の補助

- **獣医師の指示の下に行う**採血、投薬（経口など）、マイクロチップ挿入、カテーテルによる採尿など

愛玩動物看護師のみ
実施可能
(獣医師も引き続き実施可能)

その他の看護

- 入院動物の世話、診断を伴わない検査など

動物の愛護及び適正な飼養に関する業務

- 動物の日常の手入れに関する指導・助言（グルーミング、爪切り、歯磨き等）
- 人と動物の共生に必要な基本的なしつけ（適切な社会化を促す為の教室の開催）
- 動物介在教育（AAE）への支援（小学校等を訪問し学習活動をサポート）
- 動物介在活動（AAA）への支援（高齢者施設等でのセラピー活動）
- 動物飼養困難者（高齢者等）への飼育支援（家庭訪問、電話等で飼育に関する助言）
- 災害発生時の被災動物適正飼養の為の支援（地方自治体との連携協力）
- 動物のライフステージに合わせた栄養管理（ペットショップ等での食事相談）

など

愛玩動物看護師以外も
実施可能

その他一般業務

- 診察受付・院内の衛生管理・備品の在庫管理など

愛玩動物看護師の業務

愛玩動物看護師

- 令和元年「愛玩動物看護師法」施行
- 現在、資格保有者は約2万人
- 令和5年2月に第1回目の国家試験実施



本日の内容

1. 犬猫の高齢化の実際

2. 高齢になると罹患率が高い「がん」に関する基礎的な知識

3. 高齢となった犬猫の介護現場の実際～ご家族様からの質問集～

4. 動物医療グリーンケア[®]について

日本における中高齢期の犬・猫事情

平均寿命



: 14.90歳



: 15.92歳

7歳以上頭数の割合



: 37.6%



: 50.9%

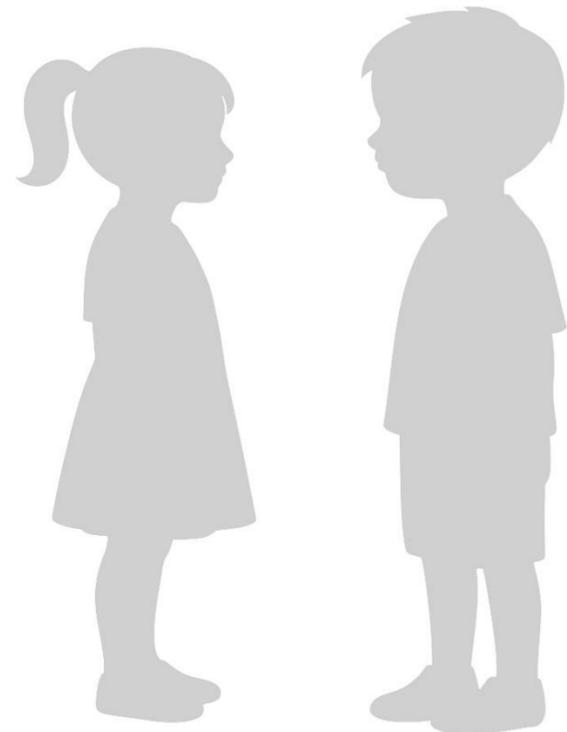
ペットの飼育頭数と15歳未満の子供の人数

15歳未満人口

1366万人

(2025年4月1日時点)

総務省統計局HPより引用



犬猫飼育頭数

約1595万頭

(2024年度)

一般社団法人日本ペットフード協会HPより引用





犬猫の死亡原因



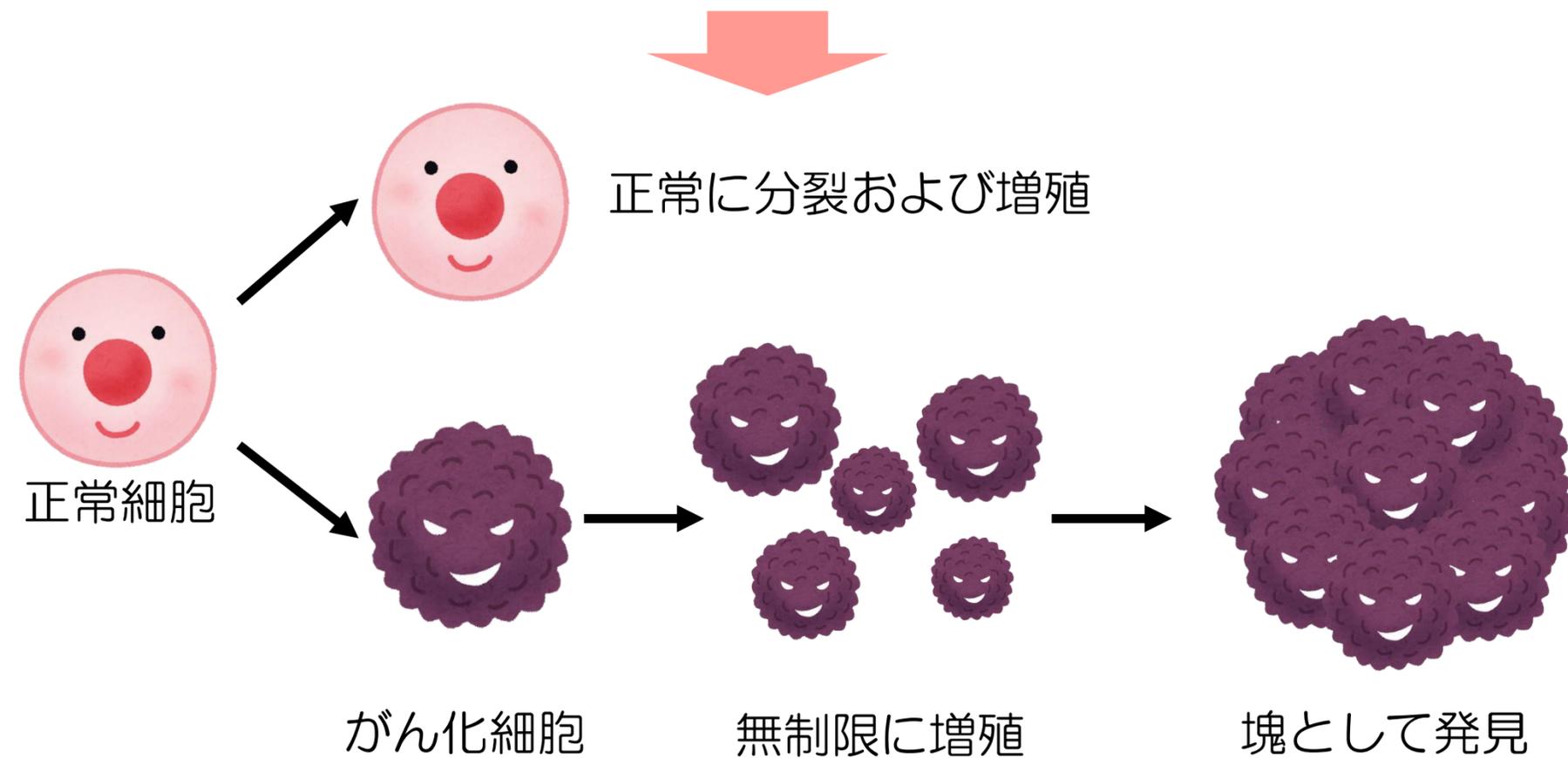
犬：1位



猫：2位

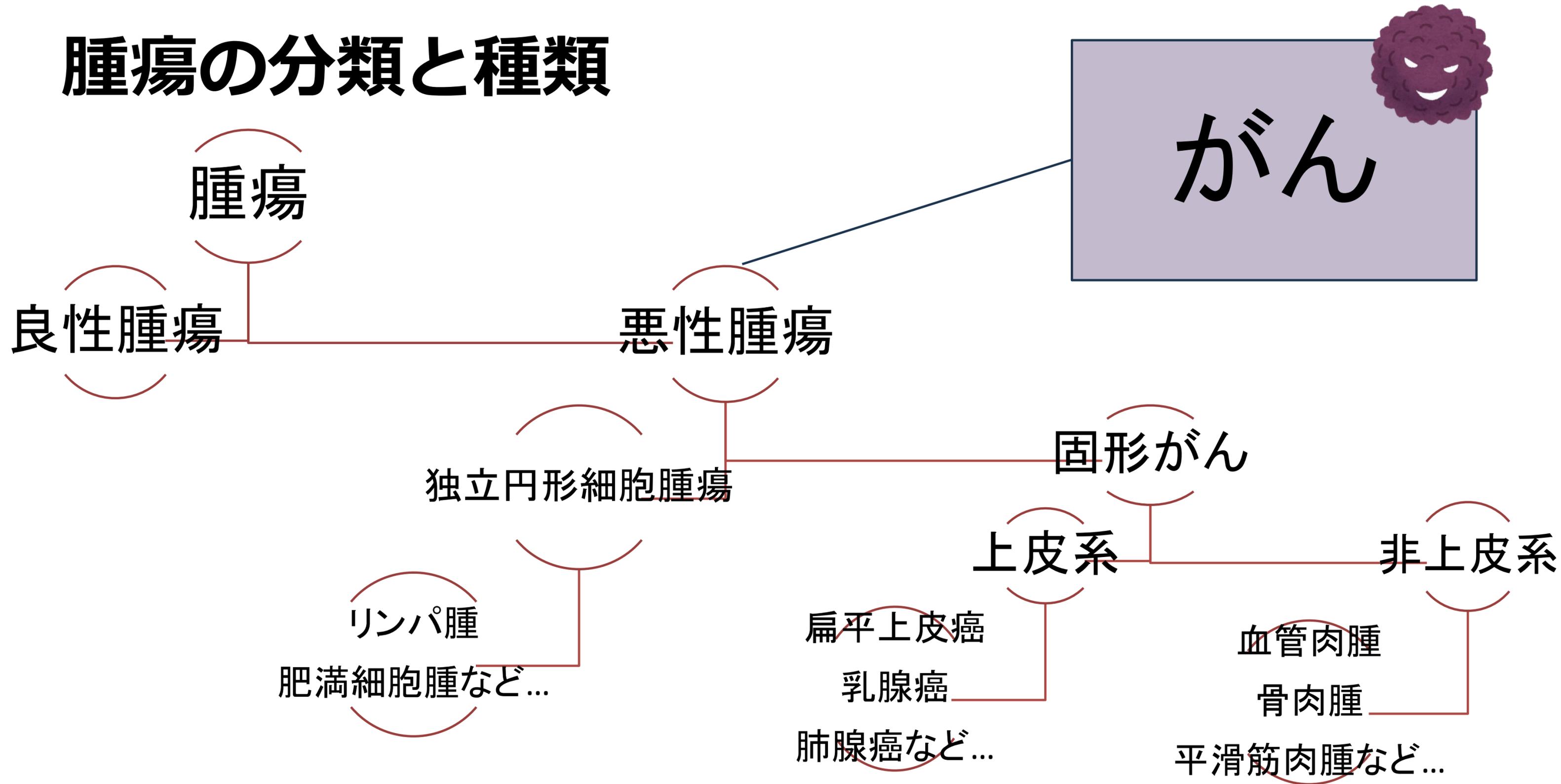
がんとは

「本来自己の体内に存在する細胞が、自律的に無目的にかつ過剰に増殖する状態」



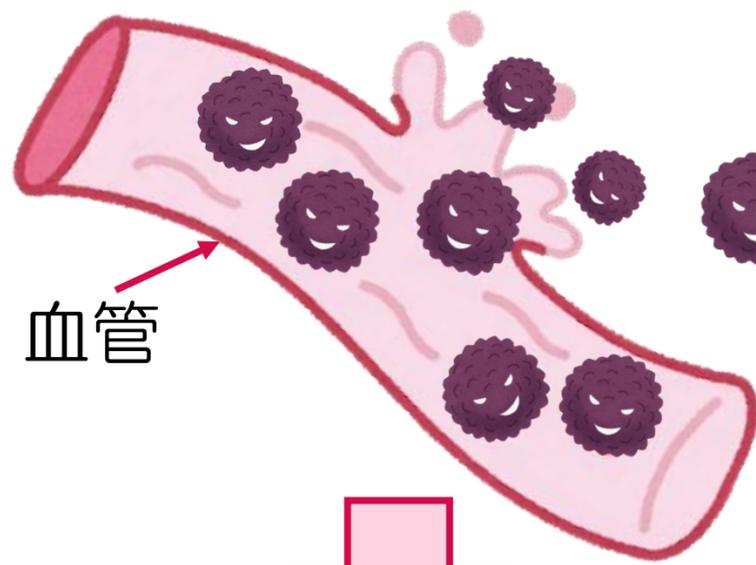
「腫瘍 = 細胞分裂のルールを破った細胞の集団」

腫瘍の分類と種類



がん細胞の転移様式

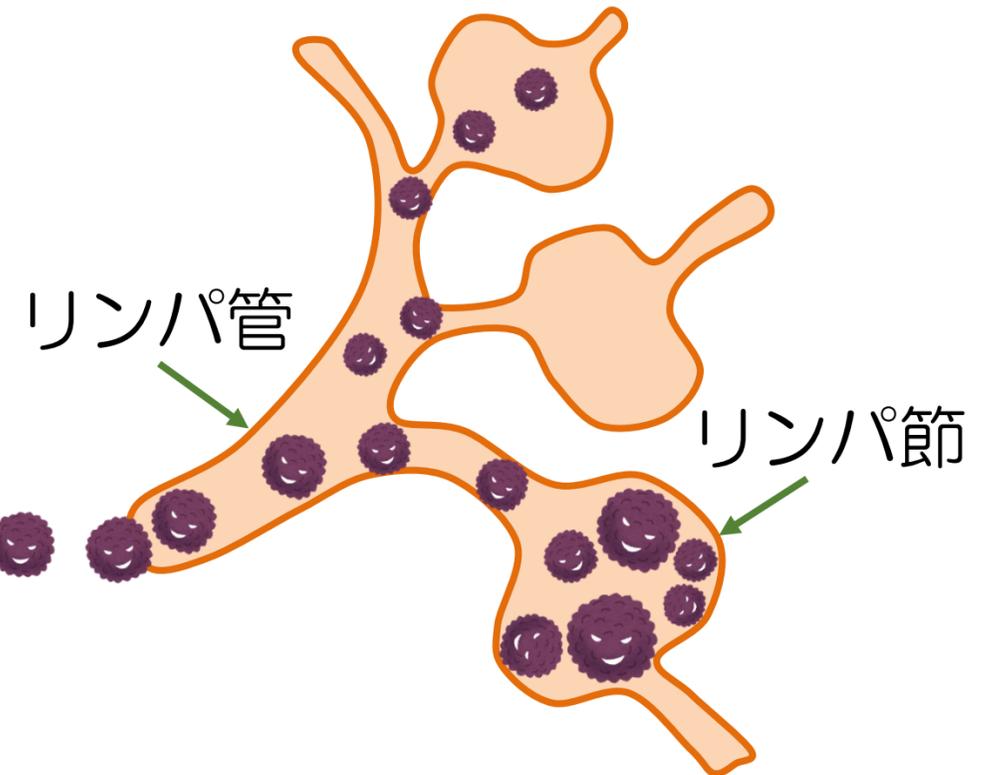
血行性転移



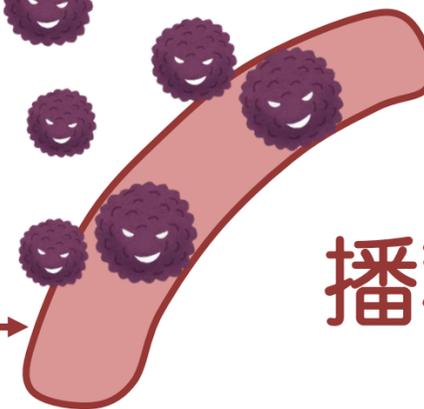
がん



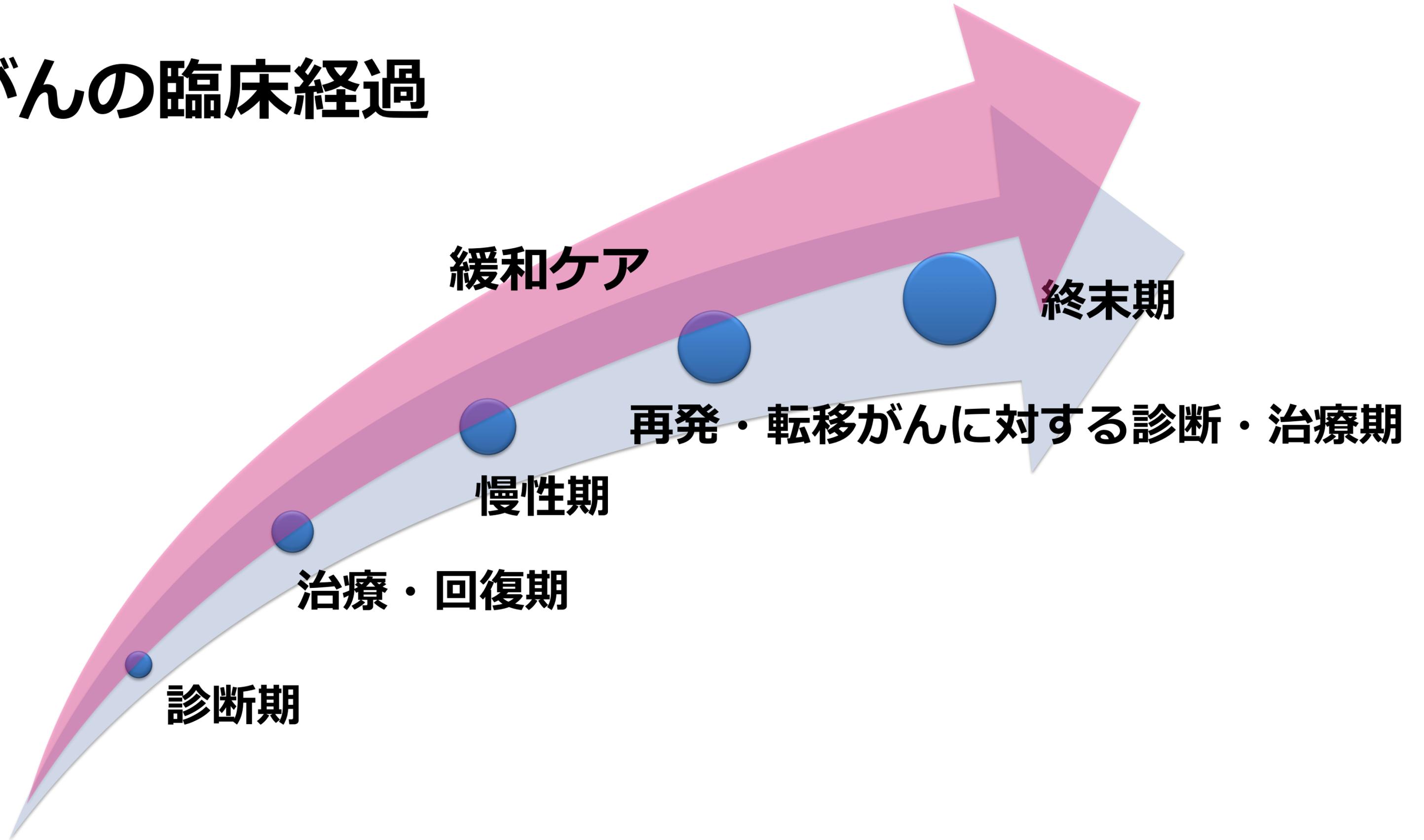
リンパ行性転移



腹膜



がんの臨床経過



外科療法

病変を即座に取り除ける唯一の方法
(局所療法)

がん薬物療法

遠隔転移の阻止または遅延させることや造血系腫瘍に対する唯一の方法
(全身療法)

放射線療法

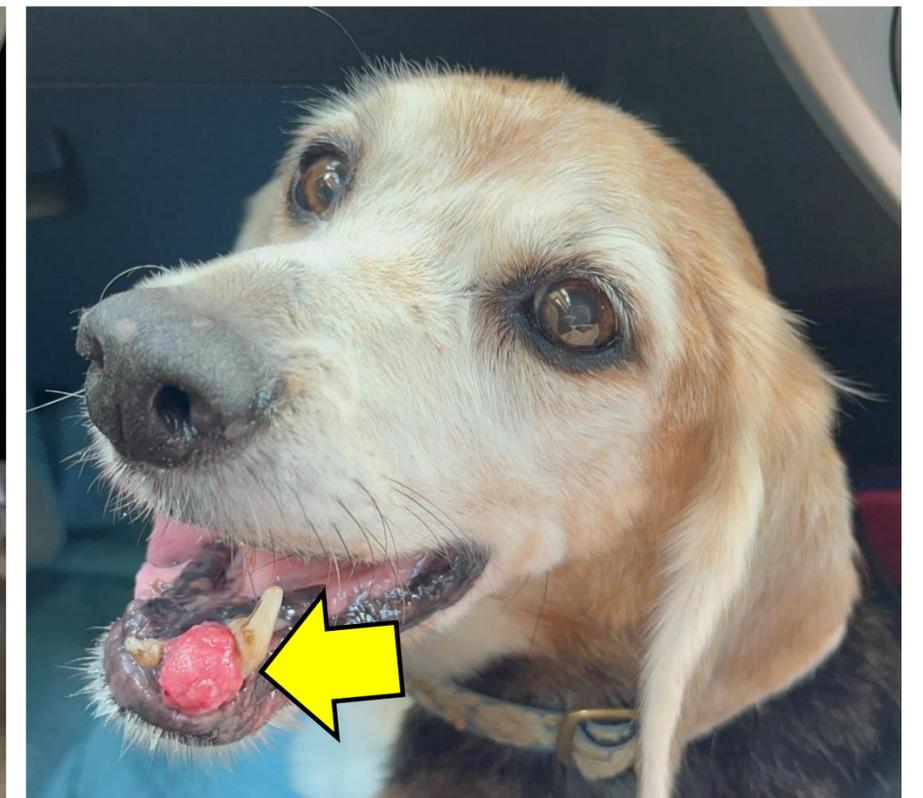
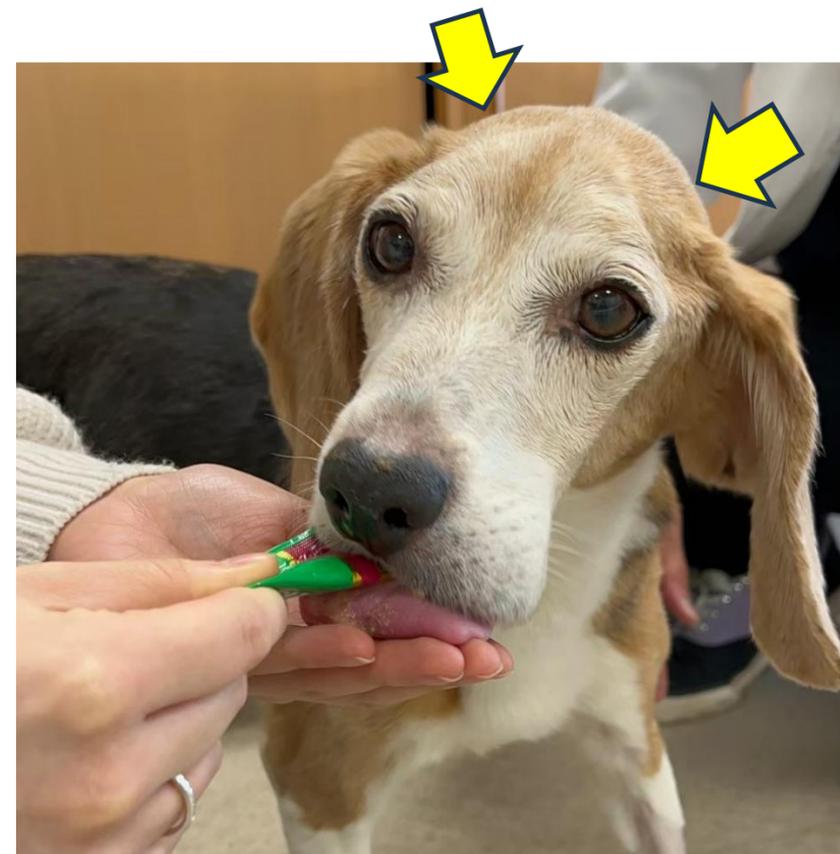
高エネルギーの放射線のがん細胞に照射して治療する方法
(局所療法)

ご自宅でできるチェック

動物の身体を触る、見るという
コミュニケーションをとる

例えば…

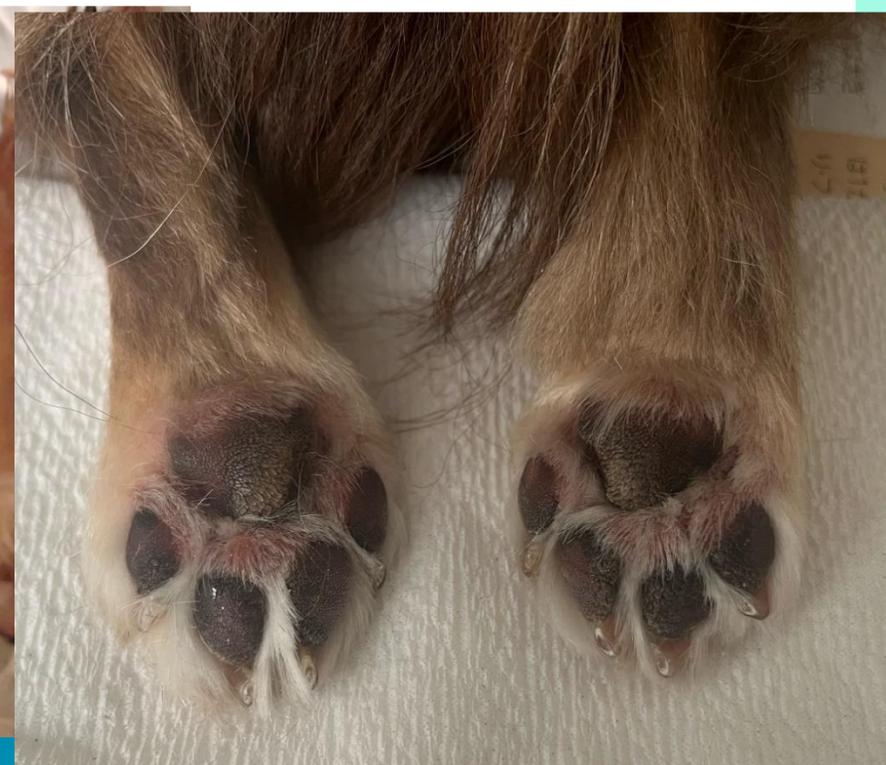
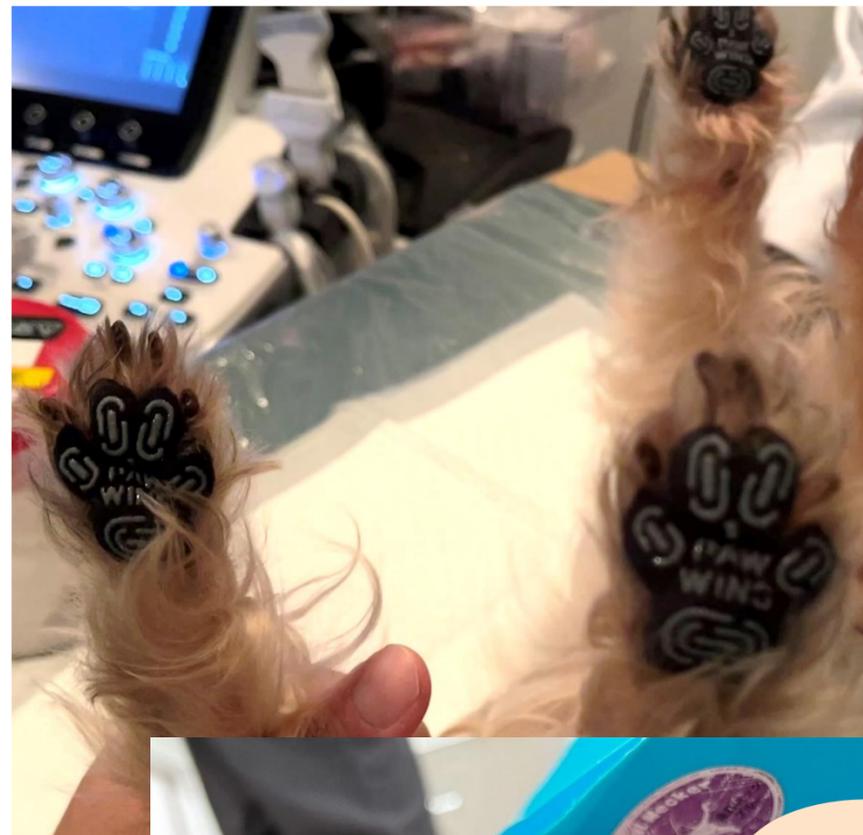
- ✓なんかできものがある
- ✓なんかお腹が膨れている
- ✓脚が腫れている
- ✓歯ブラシを嫌がるようになった
- ✓食べているのに
なんか痩せてきている



★ 介護に関するご家族様からの質問集 ★

- お家で足が滑ってしまいます
- 食事を与えるさいの注意点はありますか
- 寝たきりになってしまったらどういうことを気をつけたらよいでしょうか
- 昼夜逆転生活になっています…
- 隙間に挟まるようになりました…
- 排泄の失敗が増えました…
- +α

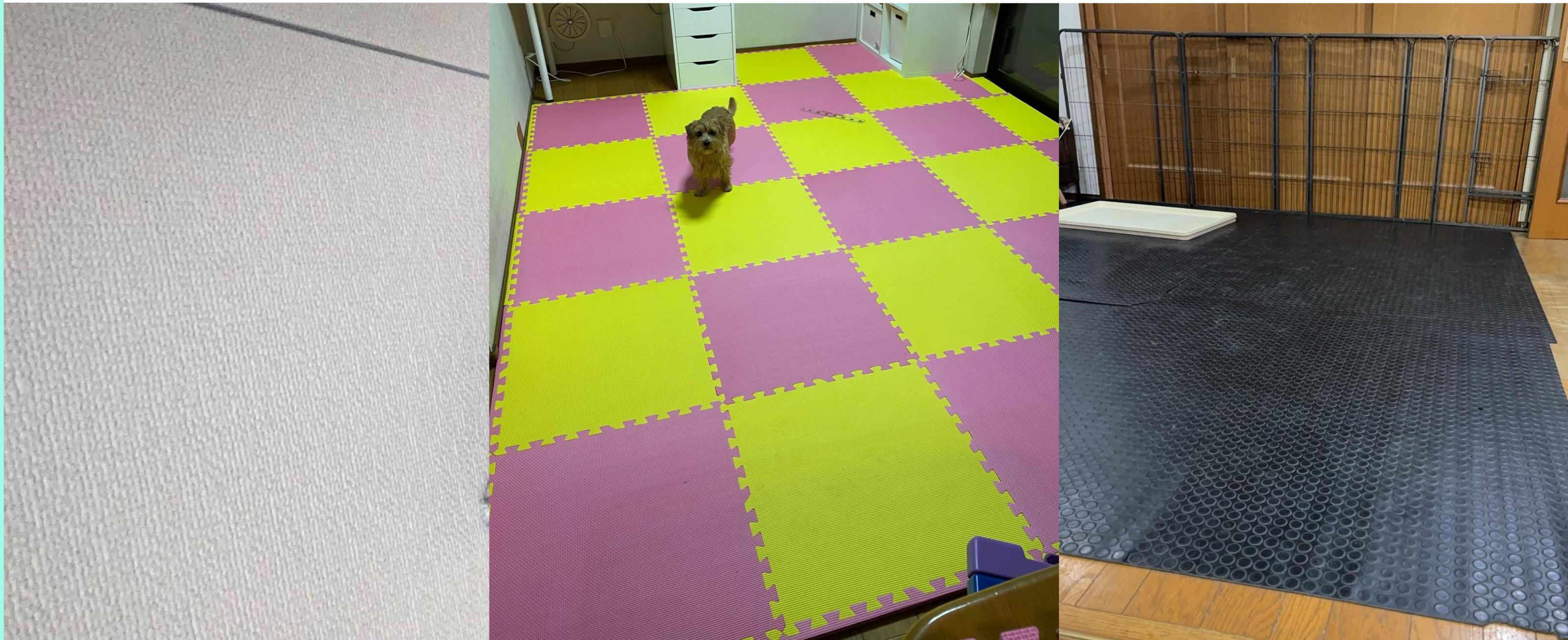
滑らない工夫



靴下を履かせるときの工夫



滑り防止のためのマット



食事の際にこんなことがあります

- 頭が下に下がってしまい、頭から前にいってしまう
- 前肢が滑ってしまい、食べにくくなる
- 食べれているようで実は食べられていない
- 途中で疲れてしまう
- 口が開きづらくなっている
- 食事に対する自己主張が強くなる
- 食事の準備と食べさせることに時間がかかる



食事の際にできる介助

- 食器を高めの位置に置く（頭を下げ過ぎない）
- 床材は滑らない素材のものを敷く
- 無理に立たせなくとも上半身を起こせれば伏臥位でもよい
- フード残量がしっかりと目視できるお皿で与える
- シリコン製のスプーンを用いる
- 必要に応じてとろみをつけてみる
- 口が開きにくい子はなめとりやすい形状に工夫



段階を経て変わる食事のスタイル

つかれてきちゃったな...



4本の脚でしっかりと立って食べている



ごはんを食べていると疲れてしまう

段階を経て変わる食事のスタイル



段階を経て変わる食事のスタイル



フードの形状



ふやかしのみ



ふやかして漬す



どろどろにする

飲水に関して気を付けたいこと

- 自ら飲水をする回数が減っていく→飲水場を増やす
 - 自ら飲水をしなくなる→飼い主の介助が必要
 - いきなり顔に水皿を近づけるとびっくりしてしまう
 - 水温の管理（温かいor常温or冷たい）
 - 水位をよく見て（鼻の位置に注目！）
- おぼれないように注意**
- 水位が目視で確認できる食器を使用
 - 自ら舐められない場合はシリンジで給水



褥瘡とは

「身体に加わった外力は骨と皮膚表層の間の軟部組織の血流を低下、あるいは停止させ、この状況が一定時間持続されると組織は不可逆的な阻血性障害に陥り褥瘡となる」

日本褥瘡学会より

側臥位での好発部位：肩甲骨、大腿骨転子部、頬、肋骨

早期発見・早期治療が鍵!!



褥瘡予防の鍵

酷くなると動物の生活の質を落とし、
最悪の場合は褥瘡部位からの感染により死亡



高齢犬の褥瘡発生を予防することは非常に重要!!

褥瘡の発生は普段の生活環境が影響するため、
発生場所は**動物病院よりも多くの場合はご自宅**



ご家族の方が簡単に褥瘡のリスクを評価できることが理想

中高齢期のペットに起こりやすい事象

質問内容	褥瘡あり(21頭)	褥瘡なし(121頭)
強制給餌や栄養点滴は行っていますか？	76%	20%
自力でご飯を食べますか？	29%	5%
体型は痩せていますか？	24%	7%
関節拘縮はありますか？	33%	14%
自力で体位変換できますか？	38%	20%
骨突出はありますか？	100%	60%

褥瘡リスクアセスメントスケール

自力でご飯を 食べますか？	食べる	介助が あれば食べる	ほとんど食べない (流動食や強制給餌)
体重の変化は ありますか？	標準時と ほぼ変化なし	標準時の 2/3	標準時の 半分以下
自力で身体を動かす ことができますか？	自力で体位を 変えられる	自力で頭をあげて その姿勢を保てる	自力で頭をあげること ができない
関節が固く 動かせない部分はある ありますか？	なし (関節拘縮がない)		ある (関節拘縮がある)
臀部の骨突出は ありますか？	なし		ある
点数	0	1	2

褥瘡を予防するには

- 褥瘡のリスクを適切に評価
- 適切な寝床：硬い床に寝かせない
体圧分散性の高いベッドやマットの使用
- 湿潤：便や尿によるムレやかぶれの防止
通気性の悪さを改善
- 摩擦（ずれ）：ベッドのシーツやおむつとの摩擦に注意
- 栄養状態：適切な栄養管理
- その他：体位変換が難しい場合に部分的な圧抜きを行う



夜鳴き・夜間覚醒・昼夜逆転



夜鳴き・夜間覚醒・昼夜逆転に対するケア

- 物音や人の出入りを少なくし、ぐっすりと眠れる環境作り
- 寝心地の良いベッド
- 寝る前に（少量の）ご飯を与える
- 動き回って身体が熱くなっているため眠たくても寝られない場合があるため、身体を冷やす工夫をする
- 日中に活動できるようにする





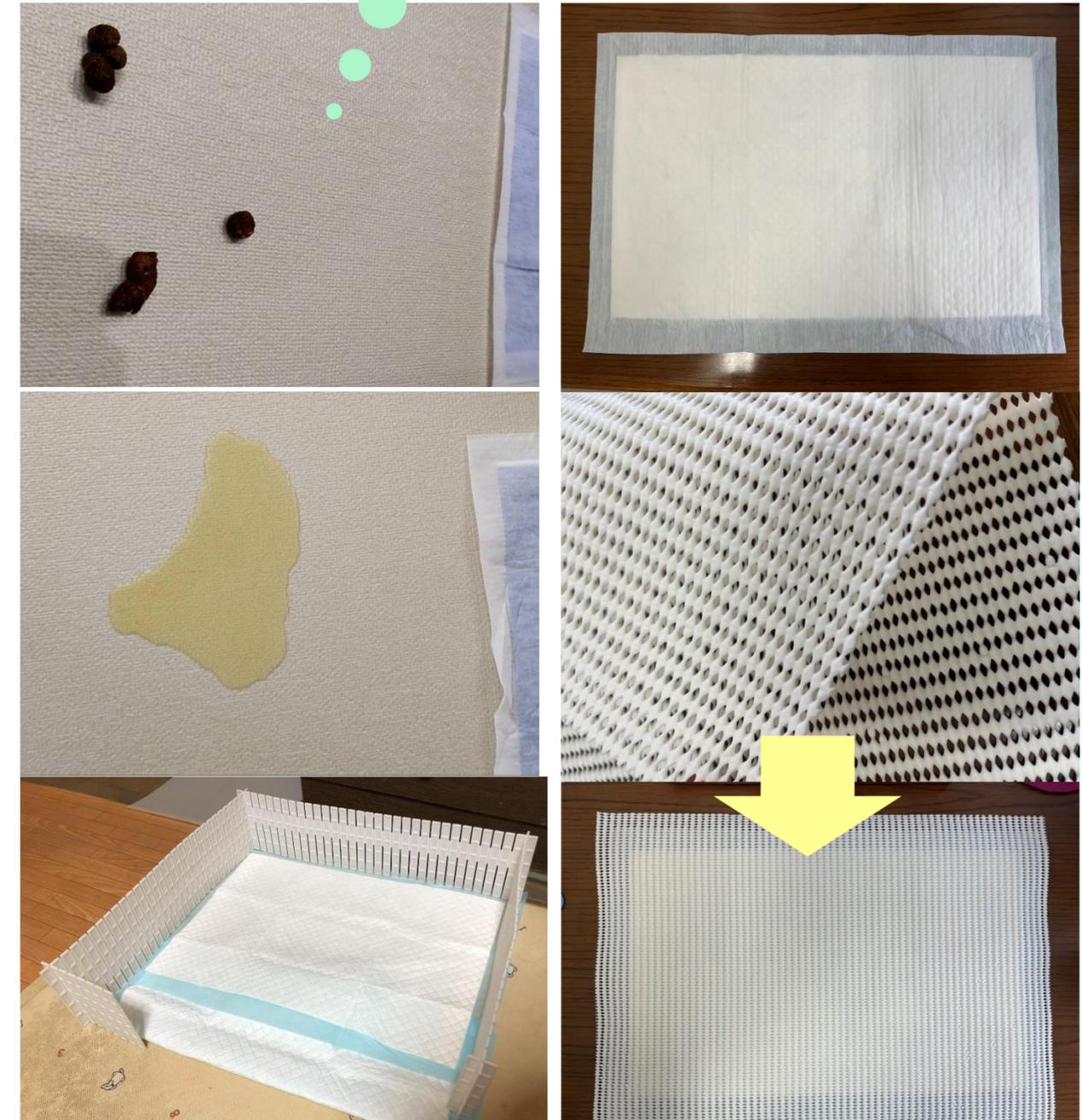
カドカドを無くす工夫



排泄の失敗に対するケア

清潔環境の維持と
消臭は忘れずに！

- トイレに行きやすい場所に設置する
- 食事場とはなるべく離す
- 視覚が低下している場合は、
 - ✓ トイレの近くに人感センサー付きのライトを置く
 - ✓ 床材の素材を変えてトイレまでの道筋を作る
- トイレのスペースを広くする
- トイレに囲いを付ける
- ペットシーツの上に滑り止めマットを敷く
- トイレの段差をなくす
- 排泄の素振りが認められたらトイレに連れていく



適切なおむつのサイズ

…。(°-°)



犬用



猫用

はじめまして！
クララです



ワンちゃん用おむつの作り方

① しっぽと肛門の位置を考慮して穴を開けます。

*便をおむつの外に出したい場合は、しっぽの付け根～肛門の少し下まで(写真赤矢印)穴を開けます。逆に外に出したくない場合は穴を小さく開けることもありますが、特に便が緩い場合は、おむつの中に便が入ってしまうと、おしり周囲が便で汚れてしまうので、ご家族の皆様のケアが大変になってしまうかもしれません。
*切った断端から中のポリマー(吸収剤)が出てしまう場合はテープでとめてしまうと良いです。

*穴を開ける位置が確定したら、型紙を作っておくことや、おむつの柄から開ける一定の位置を決めてもいいかもしれません。



② 小野沢家では便が外に出たときにキャッチできるようなビニール袋を両面テープで穴の周りに貼っています。
*もちろんこのビニールが無くてもOKです。



③ おむつを装着します。

*うちのわんこの場合は歩くときにおむつがずり落ちてしまうので、洋服を着せて、安全ピンで背中側を一か所とめています。

*ずり落ちてこない場合は洋服や安全ピンは必要ございません。

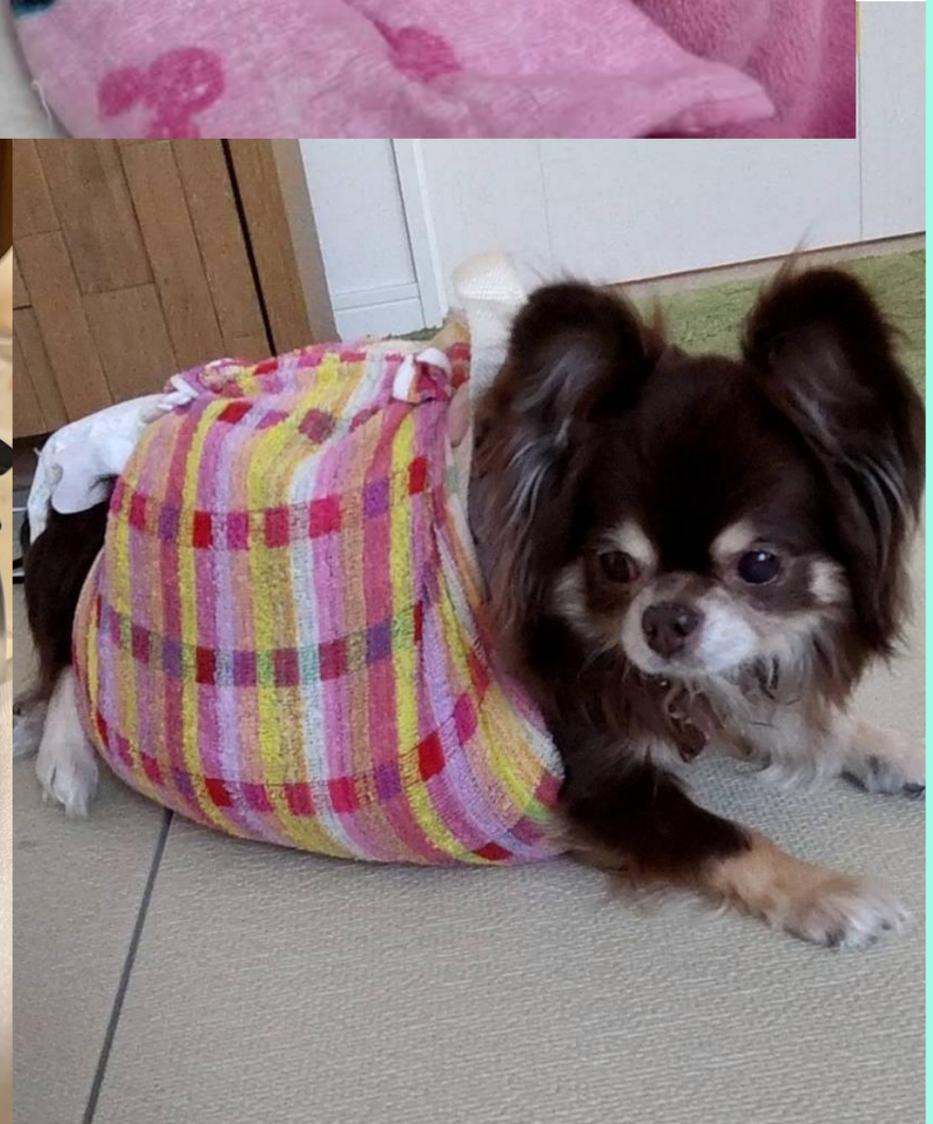
*もし便が細く緩くなっている場合は、おむつと身体の間隙があると、便がおむつの中に入ってしまうので、なるべくおむつをたゆませないように装着するとよいと思います。

←

※うちの子が使用しているおむつはパンパース・Sサイズ・テープタイプです。



おや？なんか落ち着くかも…





興奮しているときは難しいかも…



"その子"の落ち着き方を見つけよう

落ち着くことができるポイントを探る

- 抱っこ（抱き方も考える）
- 身体が熱くなっていないか確認
- お腹がすいているかも
- トイレにいきたいのかも
- 何らかの違和感を感じているのかも



寝がえりができない!!



こんな格好で寝るのに💧

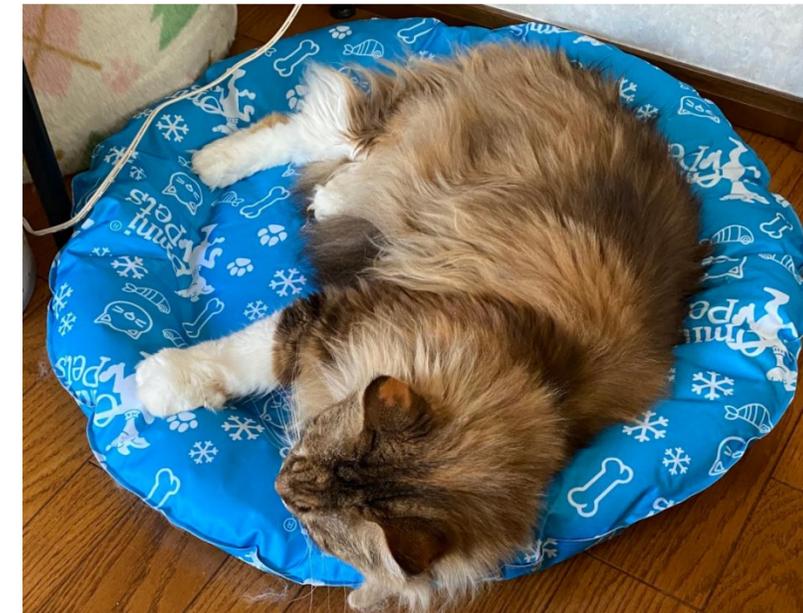


寝床は沈みにくく、起き上がりやすいものを!!



中高齢期の猫と暮らす方にインタビュー

- 昔は高いところに上っていたが、最近は上らなくなった
- よく寝るようになった
- よく寝ること、食べること、トイレに行くことが毎日のルーティン
- 食べ方が変わった
- 益々食事の選り好みをするようになった
- 要求鳴きをするようになった
- 階段の上り下りが難しくなった
- 排泄の失敗が増えた
- おもちゃで遊ぶことが減った
- 自己中になった（笑）



みなさんにとってペットの存在は？

家族

宝物

話し相手

信頼できる相手

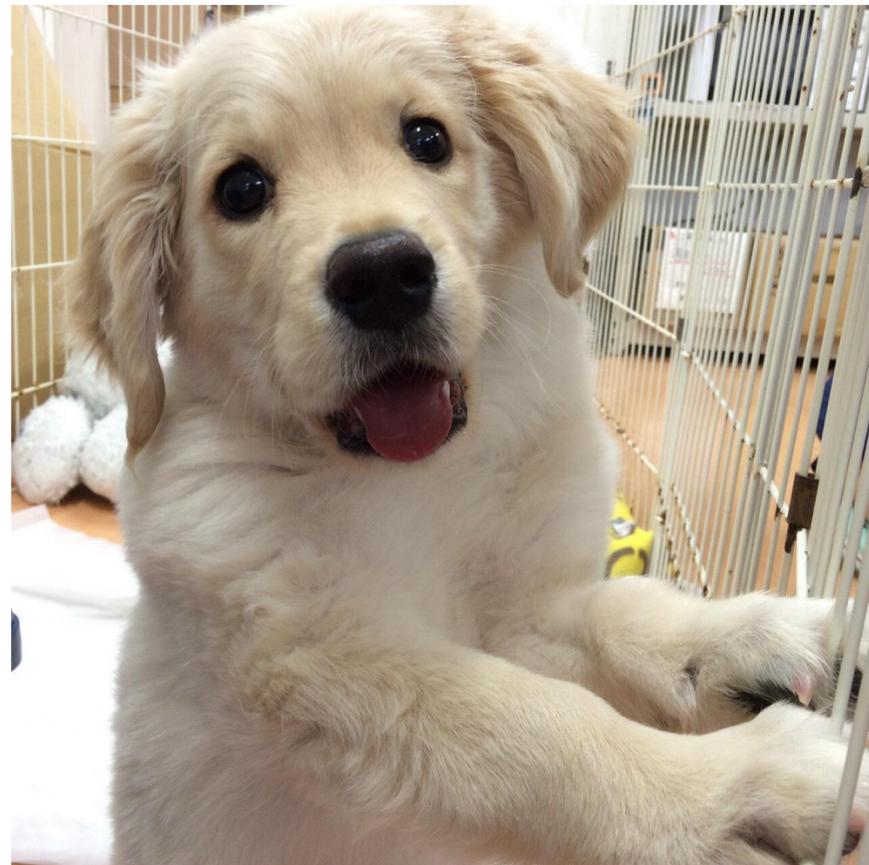
安心感

親友

間

大好き

遊び相手



笑顔が生まれる

エネルギー源

自分たちの
生活の質up!!

ありのままの
自分でいられる



介護をするご家族

- 漠然とした不安
- 先の見えない介護
- 介護疲れ
- 相談相手がいない
- 時間的制約
- 経済的負担
- 社会生活への影響



グリーフとは

自分にとって大切な対象を失くしたり、失くすかもしれないと想像した時に表れる自然な心と身体の反応



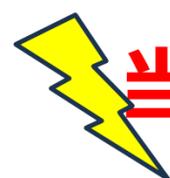
当り前に起こる反応

- ✓ ペット
- ✓ 家族
- ✓ 友人
- ✓ 物

✓ 当り前の日常

ペットとご家族にとって**当り前の日常**とは？

➡ペットが元気、ペットがいる生活、**宝物**、ペットと会話をする、ペットと遊ぶ、
ペットの喜ぶ顔を見る、ペットと散歩に行く、ペットと一緒に寝る、毎日お出迎えしてくれる、〇〇するのが日課



当り前の日常に変化が起こる

- ✓ ペットの様子が違う
- ✓ 痛みや苦しみを感している
- ✓ 食べない水を飲まない
- ✓ 排泄をしない
- ✓ 動かない・・・



- ✓ ペットは雰囲気を感じ
- ✓ 緊張感が高まる
- ✓ 不安や恐怖が高まる

ペットと人間の出会い

- 野生動物は母の助けを受けて社会性をみにつけ、自立していく
- 一方でペットは人の力を借りないと生きていけない
- 母犬や兄弟たちから離される際に初めてグリーフを感じている

✨ 出合いは奇跡 ✨



家族からの初めての
Presentは
✨ 名前 ✨

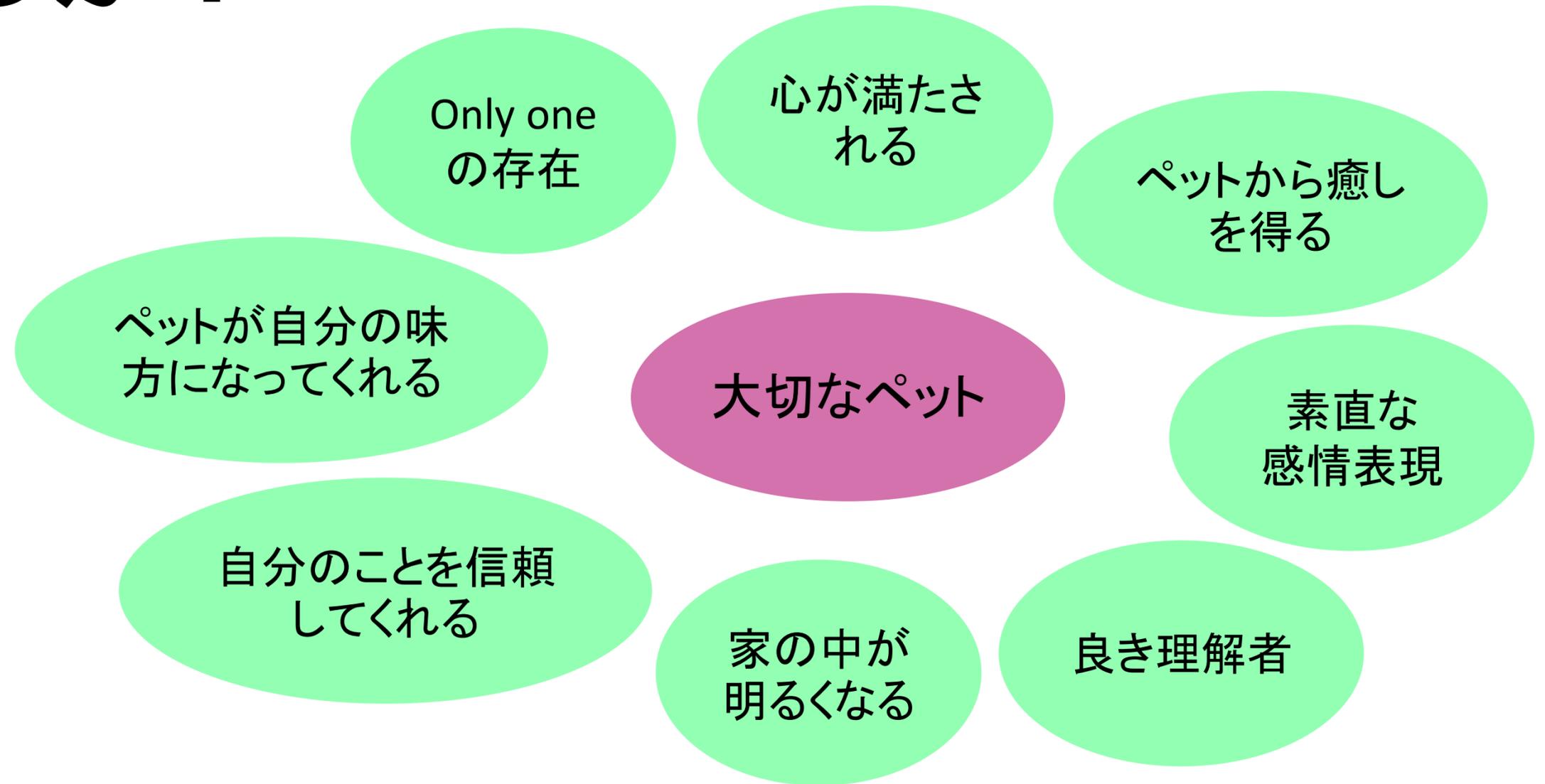
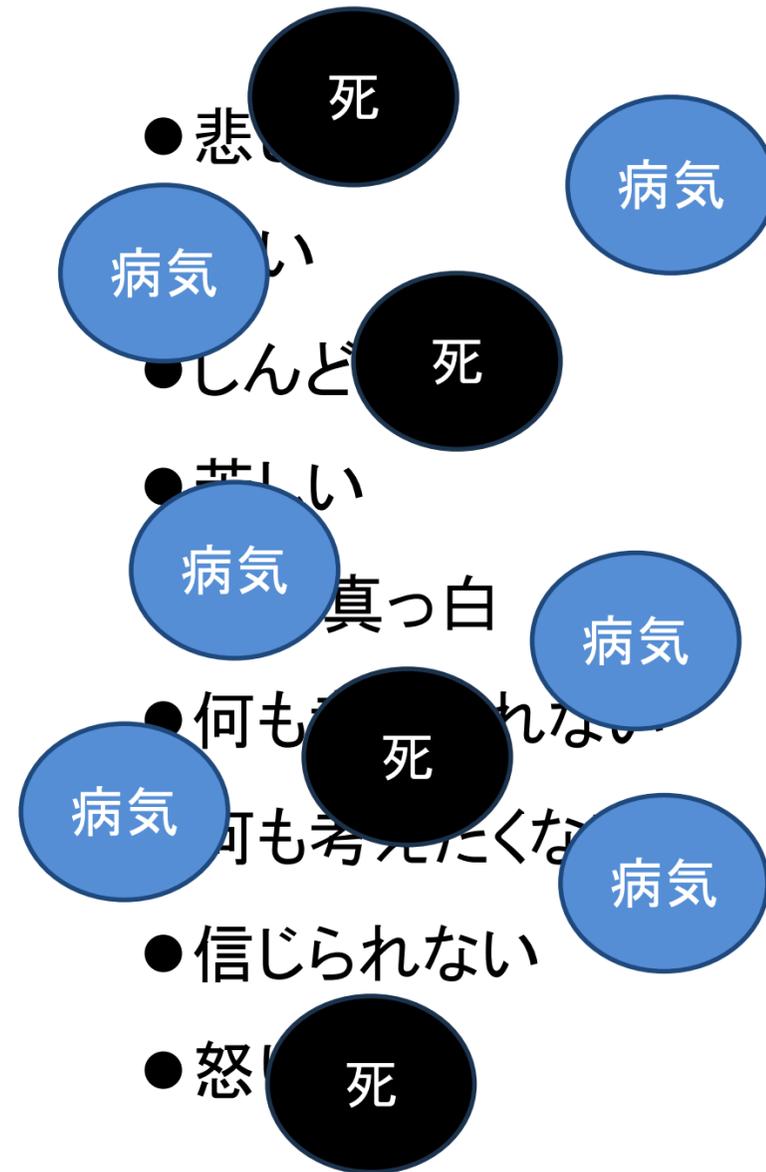
その子のことを思ってつけた
名前の由来は唯一無二

グリーフが発生しやすい時代背景

- 室内飼育
- 一緒に出かけることができる環境
- 人と同様の生活を送り、ペットと家族で時間や場면을共有する
- ペットの存在が家族の心理に大きく影響
- 特に日本では海外との文化、価値観が違う
- 獣医療の発展
- あらゆる情報が手に入りやすい環境
- 寿命が延び、長いペットとの暮らし
- 愛着対象、絆の形成

グリーフが発生しやすい環境

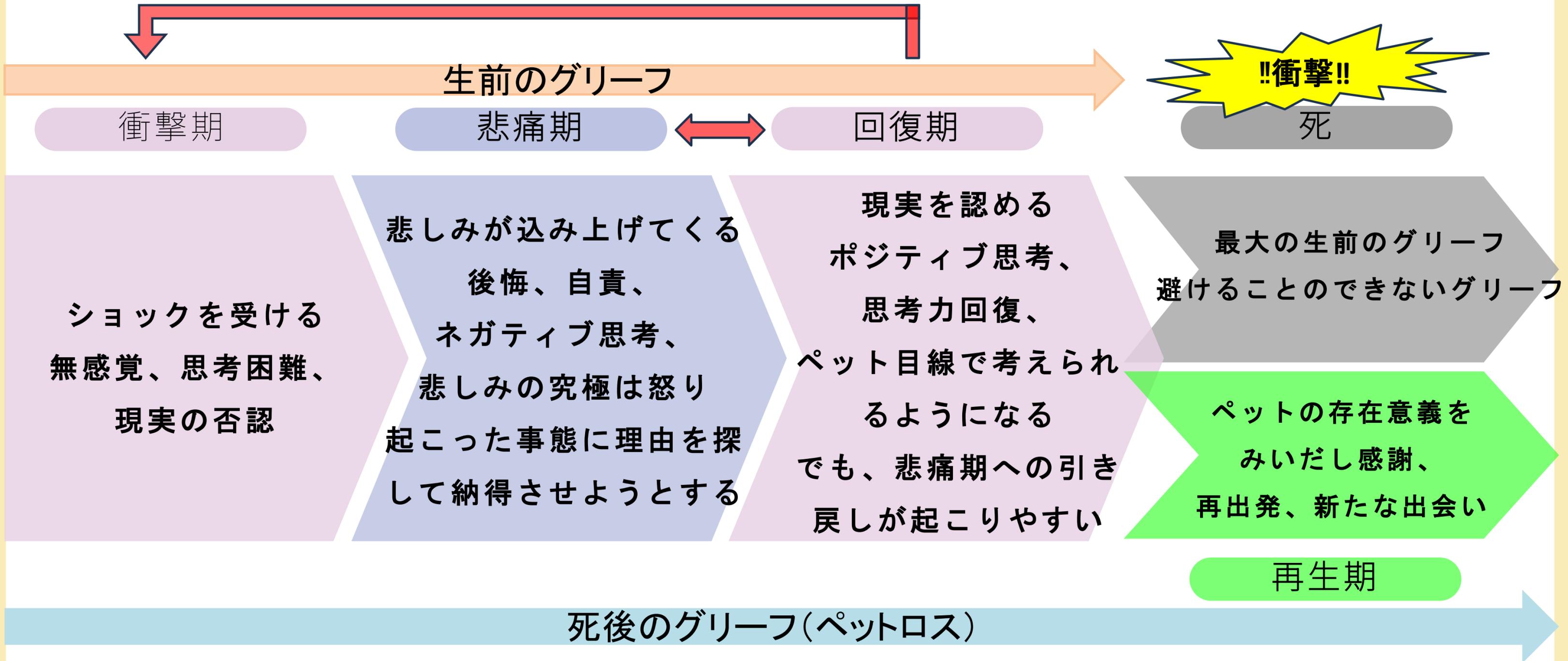
なぜ発生するか？



✨ その子のことが大切で大好きだから ✨

グリーフの理解者に思いを伝える

グリーフの心理過程



動物のグリーフを考える

グリーフを感じるのは人だけではないと
考えるのが動物医療グリーフケア[®]の重要な視点

この子にとって何が当たり前の日常(大切なこと)でしょうか？

- 当たり前の日常
- 名前を呼ばれる
- 家族の楽しそうな声
- 家族の笑顔
- 家族との時間
- 毎日の散歩
- ピアノを弾くお母さん
- 大好きなおもちゃ
- ブラッシング
- 同居動物との会話
- 一緒に寝ること
- お父さんの膝の上
- 息子さんと追いかけてっこ
- 同居動物との遊び
- 外のおい
- 日向ぼっこ
- 毎日の日課
- ふかふかのベッド
- 家族と一緒にドライブ
- 大好きなごはん
- 散歩の時に会う仲間
- 抱っこ
- 頭を撫でてくれる
- 顎下を撫でてくれる
- マッサージ

病気になったことで当たり前の日常が奪われていないでしょうか？

ペットの目線に立ってその子が感じるグリーフを考えましょう!!

ペットにとって最も安心できる場所は？



- 自分が自分らしくいられる場所
- 大好きな家族との空間
- 安心・安全・安楽に過ごせる場所
- 大好きな家族の声が聞こえる場所
- 大好きな家族の笑顔が溢れる場所
- 大好きな同居動物がいる場所
- 安心して眠れる場所
- 当たり前前の日常を送れる場所

= 安全基地

家の中では
自信を持っていられるように！

安全基地は守られていますか？

振り返ってみると…

- 名前を全然呼んでいなかった…
- 褒めていなかった…
- 話しかけていなかった…
- 一緒に笑っていなかった…
- 触れ合うことが少なくなっていた…



気持ちいいね♪



弟くと上手に歩いているね！

そういえば…  と思うことありませんか？

日々の介護に追われて疲れていると
今まで普通に行ってきたことができていないことがある

グリーフ
の加算

褒めていますか？

今まで褒められることでペットは自信がついていた

上手!! かっこいいね!!
すごいね!! かわいいね!!
よくできているね!! おりこうさんだね!!

- ✓ ふと気づくと褒めていないことがある
- ✓ 病気のことでも頭いっぱい
- ✓ ペットをみれていない

自信を失わないように
堂々過ごす姿を
たくさん褒めましょう



今日もかわいいね♡



よくできたね！おりこうさん！



年をとっても、病気になっても、どんな状況でも、
我が子は「かわいい♡愛おしい♡」
そんな気持ち、ありませんか？



我が子の**心**が満たされた生活につながるように

私たちの心を我が子は満たしてくれます

心を満たしてくれる沢山の**gift**をくれる我が子への恩返しの日

我が子と会話をしてください

我が子の想いを聞いてみてください

ご清聴ありがとうございました

